

石川の植物

美男葛「ビ

ナンカズラ」考

なんとも魅力的な名前前の植物「美男葛」。美女葛は無いのか
と聞かれることもありますが、今回はその実態を紹介します。――



図1 赤い集合果をたわわに付けた「美男葛（ビナンカズラ）」



元石川県立自然史資料館長

本多 郁夫

■はじめに

美男葛は、秋から冬にかけて集合果の赤い果実が実り、美しいので、実が美しく目立つ蔓の意味で、実葛（サネカズラ）とも呼ばれている。小倉百人一首に「名にし負はば逢坂山のさねかづら人に知られでくるよしもがな」（二条右大臣）と歌われていることでも有名である。

全国的には、関東地方以西、四国、九州、沖縄に分布し（「樹に咲く花 離弁花①」）、石川県では、能登の外浦地区を除く標高200m以下の低地に分布することが知られており、加賀地方に多い（図2）。

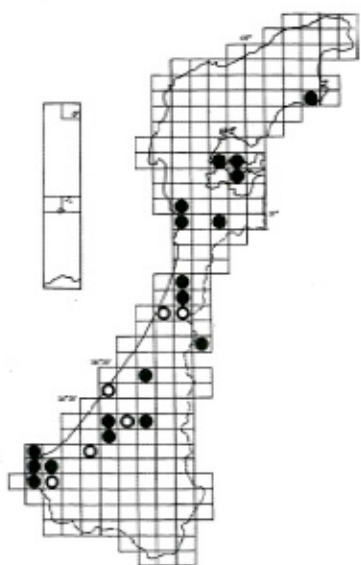


図2 県内分布図（石川県樹木分布図案による）

神社などの社叢林でよく見られ、金沢城公園の「いもり坂」や「甚右衛門坂」でも多く見られる。花は8月～10月に咲き、9個以上の淡黄白色の花被片（萼片と花弁の区別がつかない花の場合、萼片と花弁をまとめて花被片と呼ぶ）がある。花の直径は15ミリぐらいである。

■雄花（雄株）

雄花は、雄しべが中央に球状に集まって鮮やかな赤色に白色をちりばめた構造で（図3）、とても

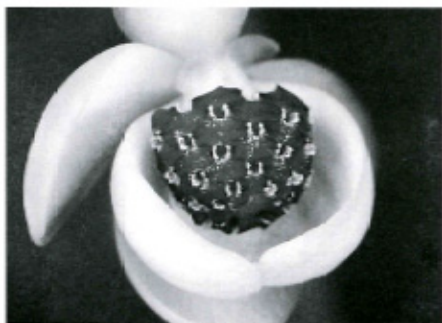


図3 花被片の一部を取り除いた雄花。中央に雄しべの集団が見える。

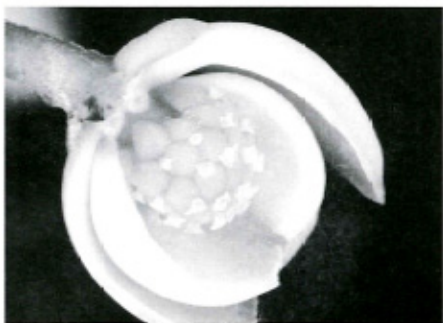


図4 花被片の一部を取り除いた雌花。中央に雌しべの集団が見える。